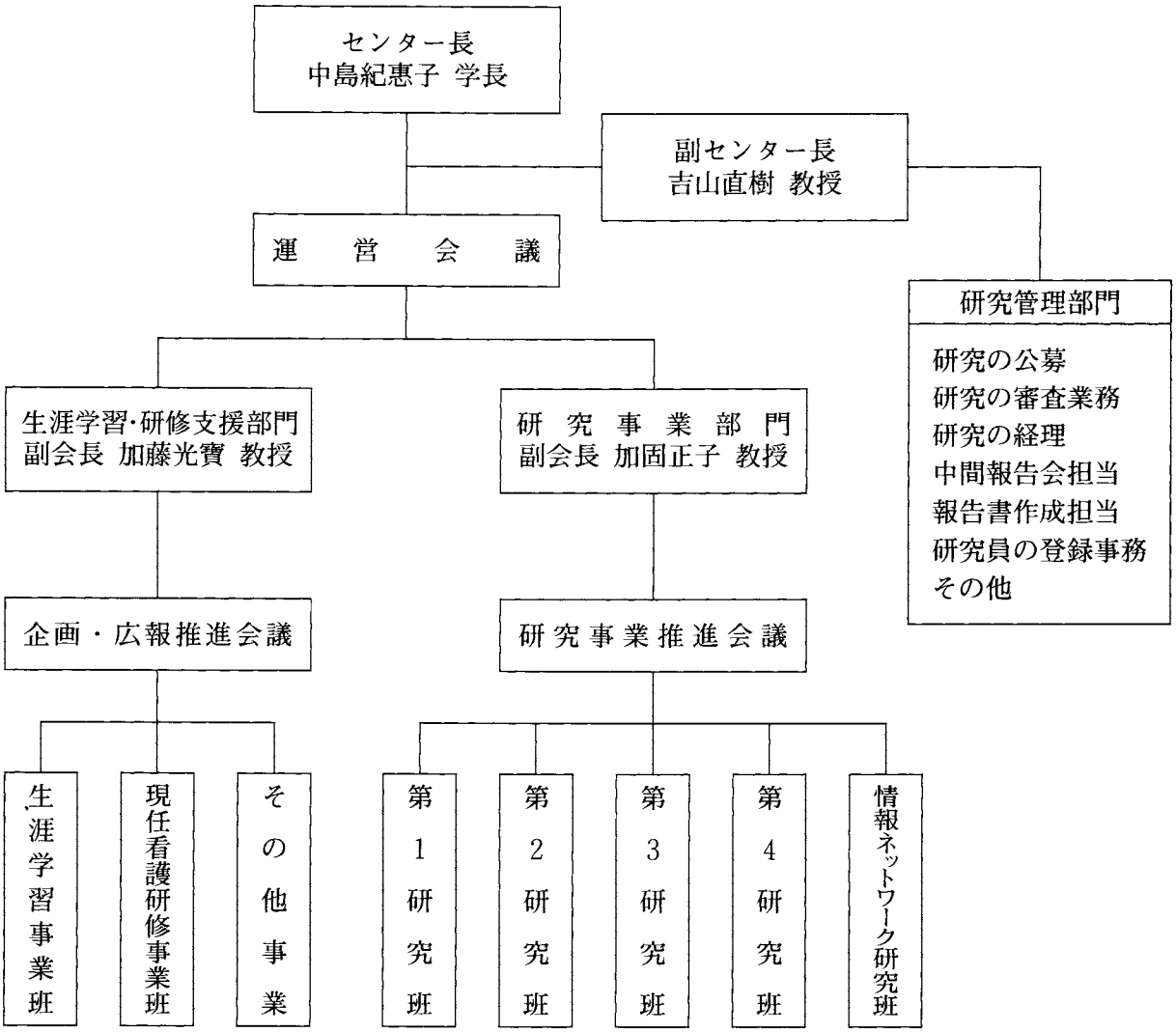
第５章　看護研究交流センター
Niigata Research Institute of Nursing （NIRIN）

１　目的

本センターの設立目的は、実践的な学術支援などの交流活動を通じて、研究成果を地域に還元し、県内における保健医療福祉の質の向上に貢献することである。

センターが進めている研究事業には、保健医療福祉に係わる新潟県保健福祉行政の課題について研究する「行政課題研究事業」と、企業や各種団体等の「受託研究事業」、及びセンター研究員が自発的に取り組む「教育研究事業」がある。これに加えて県民の生涯学習、看護職員臨地実習教育を支援する生涯教育支援事業、及びネットワーク情報システム作りを担っている。

２　組織体制と施設



事務局：事務局長（大学事務局長、兼務）
研究事業担当大学教員（兼務）　（１人）
事務部門担当事務職（事務局兼務）　（１人）

＜施設＞

① 看護研究交流センター（事務室）

② 大会議室（大学施設と兼用）

③ 多目的室（大学施設と兼用）

＜予算＞

予算は、地域課題研究事業、生涯学習支援事業、ネットワーク構築事業それぞれに配分されている。開学以降、予算額は減額され、16年度地域課題研究事業の予算は約600万円、生涯学習支援事業は約160万円、ネットワーク構築事業では約190万円である。

3　地域課題研究事業活動に関すること

1）平成14年度、15年度

部会長：加固正子

部会員：冨川孝子、杉田収、吉山直樹、加城貴美子、橋本明浩、大友康博

研究事業部門が母体となって運営活動を行う。具体的には、前年度10～11月頃に、次年度行う課題研究の枠組みについて試案し、それに基づいて学内公募し、提出された計画書を審査した上で採用している。

調査研究活動は、「平成14年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書」および「平成15年度看護研究交流センター事業活動・研究報告書として冊子にまとめた。また、２年間の活動を学内外に公開発表する目的で平成16年6月に研究報告会を開催した。

平成15年度は以下の４つの研究班構成とし各班各々４～６グループの小班を作るなかですすめられた。

（１）地域ケアの推進体制

①豪雪地帯のヘルスケアニーズに基づく実践の優先度評価に関する開発研究

（研究代表者：吉山直樹、副代表者：大友康博）

②継続看護における地域連携システムの構築

（研究代表者：冨川孝子）

③ヘルスケア分野の専門職のためのメタデータウェアハウスの構築

（研究代表者：橋本明浩）

④豪雪地帯における高齢者の居宅での保健医療福祉サービスの効果的提供

（研究代表者：中島紀惠子）

2）平成16年度事業活動

平成16年度は以下のような研究プロジェクトによって進められている。これらは17年度にも引き継がれる予定である。

①地域のヘルスケア・ニーズに関すること

②地域医療システムの開発に関すること

③看護職者の生涯教育のプログラム開発に関すること

④他大学・他施設との共同研究に関すること

⑤大学におけるIT化事業に関すること

4　生涯学習・研修支援事業

1）生涯学習事業班（14年度、15年度、16年度）

班長：中村博生

班員：田中キミ子、佐々木美佐子、深澤佳代子、堀良子

活動の目的は、県民の保健医療福祉の質の向上に貢献することを目指しており、活動の根幹は生涯学習支援事業として、県民を対象とした一般公開講座、看護職者を対象とした専門講座、地域に出向いて開講する出前講座や研修会支援から構成される。

①　平成14年度

＜一般公開講座＞

・新潟県立看護大学開学記念講演および鼎談　平成14年９月２日(月)

「国際共生の時代のために」石川好（秋田公立美術工芸短期大学学長）

鼎談　「共生時代の医療とケアを考える」石川好、中島紀恵子、吉山直樹

・女性と看護（６回シリーズ）

＜専門講座＞

・看護英会話夏期セミナー（２日間）

・看護情報処理冬期セミナー（２日間）

＜出前講座＞

県内の市町村からの希望により現地で開講

上越市(２回)、長岡市(４回)、川西町(１回)、西山町(１回)、大島村(１回)、牧村(１回)、三条市(１回)

＜研修会支援＞

地域の研修団体の研究活動を教員が現地で支援

上越市(１回)、長岡市(１回)

②　平成15年度

＜一般公開講座＞

・新潟県立看護大学開学２周年記念講演と対論　平成15年７月26日(月)

「地域に根ざした看護の発展をめざして」南裕子（兵庫県立看護大学学長）中島紀恵子

・看護とジェンダー（５回シリーズ）

・エルダリィ・スクール「サクセスフル・エイジィングへの挑戦」（５回シリーズ）

＜専門講座＞

・看護研究の基礎知識（３回シリーズ）

・看護英会話夏期セミナー（夏冬各２日間）

・看護情報処理冬期セミナー（２日間を２回）

＜出前講座＞

上越市(１回)、豊栄市(１回)

＜研修会支援＞

村松町(１回)

③　平成16年度

＜一般公開講座＞

・新潟県立看護大学看護研究交流センター特別講演

「看護政策の課題と展望」田村やよい（厚生労働省医政局看護課長）

・ナイチンゲールの時代から現代看護を読む（５回シリーズ）

・新潟工科大学との連携プログラム

エルダリィ・スクール「サクセスフル・エイジィングへの挑戦」（８回シリーズ）

＜専門講座＞

・看護研究の基礎知識（３回シリーズ）

・看護研究ステップアップコース（３回シリーズ）

・看護英会話セミナー（夏期・冬期各２日間）

・看護情報処理冬期セミナー（２日間）

「開学２周年記念講演」は、アンケートの結果では非常に好評であった。参会者が討論参加できる講演会の形式が好意で迎えられたと考える。「看護とジェンダー」は関心のある参加者にとっては有意義であった。今後は看護専門講座として開講することとした。「エルダリィ・スクール」は良好に展開し、特に参加型の講座は好評で、さらに講座を発展させたい。「看護研究の基礎知識」は看護研究を実践している看護師から有意義であるという評価を受けた。「看護情報処理セミナー」開催数を２回に増やし参会者のニーズに応えた。「看護英会話冬期セミナー」は長岡で行われ、参加人数が多かったので16年度も開催することとした。

２）現任看護研修（臨地実習指導者養成講習）事業

新潟県の看護職員に対する臨地実習教育支援事業は、平成14年度まで、県の看護協会委託事業として実施されており、当大学教員の一部が各教科の講義に出向いていた。平成15年度より、研修内容及び研修場所の設営を本学が担うことになった。

平成16年度には、看護研究交流センター生涯学習・研修部門、現任看護研修班に位置づけ、当該班長の加藤光寶教授が負っている。

研修教育の対象は、本学学生の臨地実習の現場において、その実習の指導者になる者である。

期間は、平成15年度は、８月18日から10月９日までの８週間、計219時間、平成16年度は、８月23日から10月21日までの９週間、計240時間である。

受講定員は、平成15年度は、40名(応募者70名)、平成16年度は、50名(応募者70名)で、増加分10名は本学の実習施設の指導者枠とした。

３）その他地域の生涯学習支援

看護研究交流センターの事務室は、外部共同研究者や本学の社会貢献活動と協働することになる地域のNPOリーダーも使用できるような設営条件を整えてきた。また多目的室は各種研究班や、地域の生涯教育におけるグループ活動に役立ち、この面からも本学が社会貢献できることをめざしている。

現在は、こうした活動がみられてはいないが、本学が今行っている生涯学習支援活動に参加しているグループの中からこうした動きが出てくることを期待している。

5　全教員の研究課題

1）看護基盤科学講座

氏　名	研　究　課　題
杉田　収	①抗酸化能に関する研究、②住環境に関する研究
吉山直樹	①在宅感染症の研究、②動物行動学に基づく面接技法の研究、③プライマリ・ケアに関する医師教育、④医療専門職のライフ・コース―離島・へき地における需給の研究
中野正春	小児整形外科，特に先天性股関節脱臼について
関谷伸一	①末梢神経内神経束叢の解析、②ヒラメ筋の比較解剖学的研究、③腓腹神経と脛骨神経の交通、④足背側骨間筋の支配神経
野地有子	①更年期および高齢期の健康課題とセルフケアおよび看護介入の開発に関する研究、②ＱＯＬに関する国際比較研究、③まちの保健室におけるアクションリサーチ、④看護教育におけるＰＢＬの導入と効果に関する研究
橋本明浩	観測、実験等からの情報から現実の制約を考慮した最適化の手法の研究
中村博生	①外国語としての英語教育、②看護学生のための英語教材開発
山本淳子	①異文化コミュニケーションおよび異文化看護、②マルティメディア活用のESP(特別な目的のための英語)、③児童英語教育
徐　淑子	①保健行動論、②若年者のエイズ予防行動における心理・社会的要因の検討、③若年者を対象とするエイズ教育
大友康博	協同組合組織による保健医療福祉政策の形成、実施、評価活動に関する調査研究
渡辺弘之	福祉社会学（生活していく上で生じる困難に対する援助のあり方、問題解決を社会学的アプローチから分析）

2）基礎看護学講座

氏　名	研　究　課　題
中島紀惠子	痴呆性高齢者ケアの質保証に関する実践的理論的研究
中川　泉	①介護度の高いパーキンソン患者の生活の快適性の要因について、②呼吸管理の必要な在宅療養者の地域ケアシステム
朝倉京子	①看護学領域とジェンダー、②看護の専門職性と制度、③看護職者の国際間移動、④多様なセクシュアリティ
大友優子	①プライマリヘルスケア、②途上国の保健学、③健康政策

3）実践基礎看護学講座

氏　名	研　究　課　題
堀　良子	①気道感染予防を意図した口腔ケア技術の開発、②看護技術教育の学習支援システムの構築
水口陽子	①看護技術教育について、②看護学実習における教授活動について
松下由美子	①実践的な看護技術教育の方法について、②看護における医療廃棄物とその教育について
岡村典子	看護におけるコミュニケーションに関する教育方法
籠　玲子	臨床の看護職の職業の継続に関する要因

4）母子看護学講座

氏　名	研　究　課　題
加城貴美子	①母性看護学教育に関する研究、②性教育に関する研究、③助産の歴史に関する研究、④妊産褥婦と新生児を主体とした姿勢とホルモンとの関係に関する研究
加固正子	①小児慢性疾患をもつ子どもの看護問題のアセスメントと援助法の検討、②子どもの保護者が求める保健情報と看護職者の役割に関する研究、③小児看護学教育方法とその結果の評価法
井上みゆき	①小児看護の倫理に関する研究　②ハイリスク新生児看護に関する研究
笹野京子	①母性看護学教育に関する研究、②助産学教育に関する研究、③母乳育児に関する研究
和田佳子	母性のメンタルヘルスに関する研究
大久保明子	①小児看護に関する教材開発、②小児がん看護と子どものターミナルケア、③いのち教育
阿部正子	①女性のリプロダクティブヘルスの推進を基礎とした健康教育に関する研究、②生殖補助医療における意思決定支援について
高塚麻由	①女性のリプロダクティブヘルスの推進を基礎とした健康教育に関する研究、②母乳育児中の母親へのケアについての研究
金井幸子	①子ども・家族のメンタルヘルス、②慢性疾患をもつ中学生へのサポート
西方真弓	①女性のリプロダクティブヘルスの推進を基礎とした健康教育に関する研究、②ハイリスク妊産婦と早産児の援助に関する研究

5）成人看護学講座

氏　名	研　究　課　題
加藤光寶	①成人看護学における教材の開発、②退院における実態調査
深澤佳代子	①クリティカル・ケア、②周手術期看護、③看護管理、④看護経済
小林優子	①術後急性混乱状態におけるケア、②クリティカル・ケア教育、③術後のボディ・イメージに関する研究
直成洋子	①慢性病をもつ人のＱＯＬと看護ケアに関する研究、②慢性病をもつ人やその家族の継続看護支援に関する研究
酒井禎子	①がん看護、②ターミナルケア
山田正実	①急性期看護における家族ケアに関する研究、②臨地実習における看護技術教育に関する研究
飯田智恵	低温熱傷発症条件に関する実験的検討
樺澤三奈子	がん患者の生活を支えるケア
今泉香里	脳卒中後に障害が残った患者の看護
内藤知佐子	神経内科疾患、難病を抱える患者の看護について

6）広域看護学講座

氏　名	研　究　課　題
田中キミ子	①高齢者の日常生活におけるセルフケアの調査研究、②高齢者セルフケアに必要な看護援助領域に関する研究
冨川孝子	入院直後の統合失調症患者の自己回復力
佐々木美佐子	行政保健師によるヘルスケアサービスに関する研究
北川公子	痴呆性高齢者のターミナルケア
小林恵子	①地域看護研究、②家族ケア研究、③子ども虐待防止支援に関する研究
平澤則子	①ヘルスプロモーション推進における保健師の役割、②難病家族看護とＱＯＬ評価
飯吉令枝	①地域における虚弱高齢者の健康と生活について、②在宅における看護について
後田　穣	①認知行動療法を取り入れた精神科リハビリテーション、②統合失調症者の疾病認知から障害受容過程における看護
斎藤智子	在宅療養者のケアマネジメントに関する研究
唐澤千登勢	痴呆性高齢者のコミュニケーションに関する研究
菅原峰子	高齢者のせん妄発症原因および発症予防についての看護の探求
手島美絵	認知機能障害者の疼痛アセスメントについて
津田さとみ	①高齢者の終末期ケアと意思決定を支える看護、②痴呆性高齢者の経管栄養について

6　今後の課題

開設されて2年間経過したところで、試行錯誤が続いているが、ほぼ年間のスケジュールも固定するようになり、組織的な運営方式にも慣れがみられるようになった。

研究活動をさらに活発化し、そのプロダクトが学外ばかりか、国外で認知されることが必要である。センター活動全般の他者評価、研究内容のレベルアップ（査読付きのジャーナルの発行等も含め）、人事交流の国際化と共同研究、等が望まれる。